

「ごみ」ってごみ？

兵庫県 神戸市立東町小学校 高磯 陽祐

はじめに：真生さんは、「くらしとごみ」の学習をきっかけにごみの行方に関心を持ち、自分が住む地域のクリーンステーションの分布を調べたり、ごみの収集やその処理のようすをまとめたりした作品をつくりあげました。

作品について：クリーンステーションの分布をまとめる地図づくりでは、折り込み広告の地図を拡大、トレースして地図を作成しています。そして、燃えるごみを赤色、容器包装プラスチックを黄色、燃えないごみ・カセットボンベ・スプレー缶を緑色と、神戸市の指定ごみ袋の文字色で色分けしたシールをはりました。地域のクリーンステーションを探し出すために何度も確認に出かけています。分析のために、クリーンステーション1か所を利用する一戸建住宅世帯数やコンテナ1台に割りあてられる集合住宅内戸数を表にまとめました。ごみの行方を調査するために、パッカー車を追跡し、処理場までのルートも調べています。調査のなかで出た疑問を解決するために、資源リサイクルセンター、西クリーンセンター、布施畑環境センターへの施設見学や環境局への聞き取り調査を行いました。ごみ処理にたずさわる人たちとの出会いから、

ごみ処理に関するくふうや苦勞を知ることができました。

おわりに：真生さんは、“見える”事象を深く調べることで“見えない”事実を知ることができる楽しさを実感しています。追究する意欲・手法を、今後、問題解決の学習場面で発揮してくれることに期待しています。

作成者の話：兵庫県 神戸市立東町小学校

5年 愛川 真生

社会科の学習から、通学路の途中にあるクリーンステーションのことが気になりました。「校区内にはステーションはいくつあるのだろう。」「ごみはどんな風を集めるのだろう。」「ごみは最後にどんな姿になるのだろう。」たくさんの？を自分で調べたいという思いが作品を作るきっかけでした。

自分で調べることのよさは、1つの疑問を納得いくまで追究できることです。ごみの処理方法を細かい様子まで調べることができました。そして何よりよかったことは、ごみを処理する人たちの声を直接聞くことができたことです。美しい街づくりのために毎日働く人たちの姿は素敵でした。ごみ分別の大切さを、ぼくも家族もより強く意識するようになりました。